

第23回 全国街路事業 コンクール応募資料

平成23年 2月

応募者名： 兵庫県明石市土木部道路整備課

事業の名称：JR魚住駅周辺整備事業

実施都市名：兵庫県明石市

事業目的

JR魚住駅は改札が北側にしかなく、駅南側からの利用者は、駅直近の踏切(山ノ神第二踏切)を渡り、北側の改札を利用しており、駅の交通結節機能が不十分であった。また、山ノ神第二踏切は幅員が狭小で歩車分離されていないため、歩行者、自転車及び車が輻輳し、危険な状態であった。このため、駅南広場及び自由通路を新たに整備することにより、駅南側からのアクセスの向上を図るとともに、あわせて駅北広場を再整備することで、交通結節機能の充実、強化を図るものである。

事業概要

事業名: JR魚住駅周辺整備事業

路線名: 魚住駅前線、魚住駅歩行者道、魚住駅南線

事業箇所: 明石市魚住町中尾ほか地内

事業範囲: 魚住駅北広場 A=0.23ha

魚住駅南広場 A=0.19ha

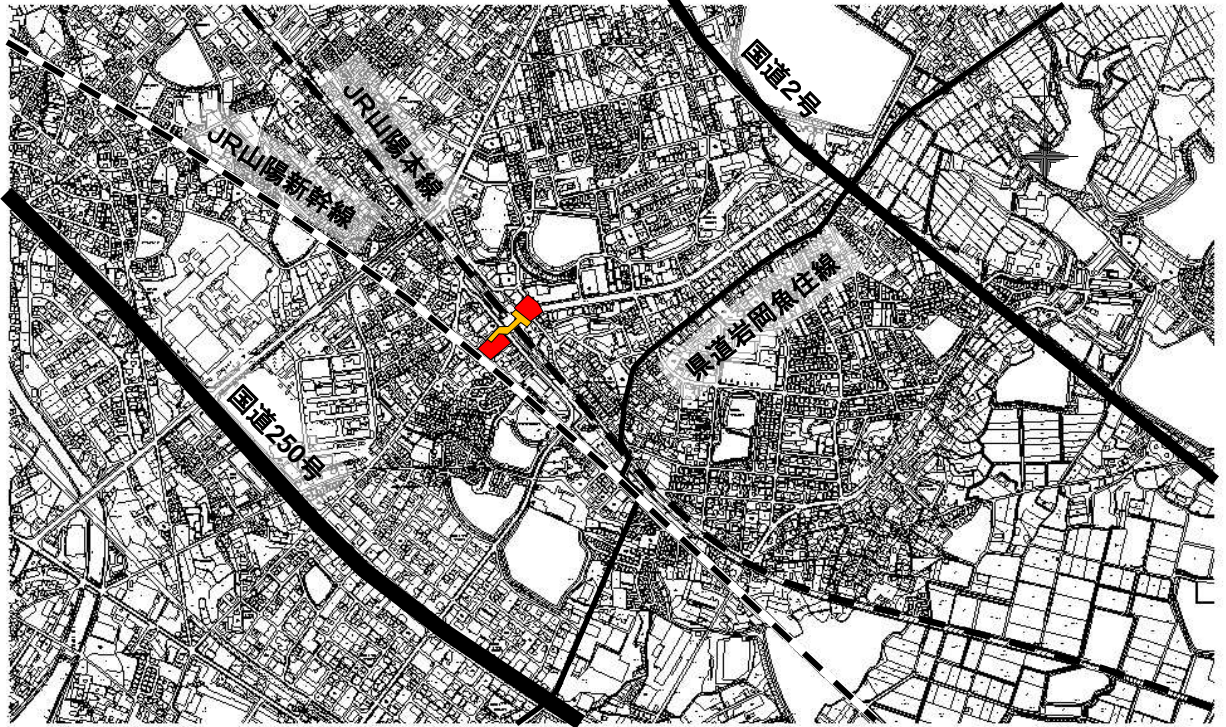
自由通路 L=70m

総事業費: 約34億円

事業期間: 平成15年度～平成21年度

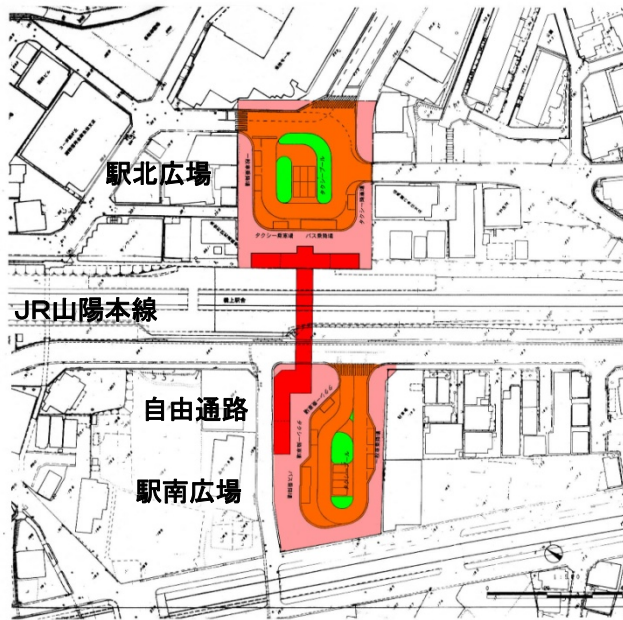
本事業により、JR魚住駅南広場(A=0.19ha)、駅北広場(A=0.23ha)及び自由通路(L=70m)の整備を行い、併せて、JR西日本が駅舎の橋上化をすることで、駅への安全で快適な歩行者動線を確保した。南北駅前広場にバス停車スペースを再配置することで、バスが踏切を渡らず駅へアクセス出来るようになり、定時性向上による公共交通の利用促進が図られた。また、駅前広場のバリアフリー化や音声案内付の情報案内板及びオストメイト対応トイレ等、ユニバーサルデザインに配慮した整備を行うことにより、高齢者や身体障害者も含めた利用者の利便性向上と移動の円滑化を図った。

事業位置図

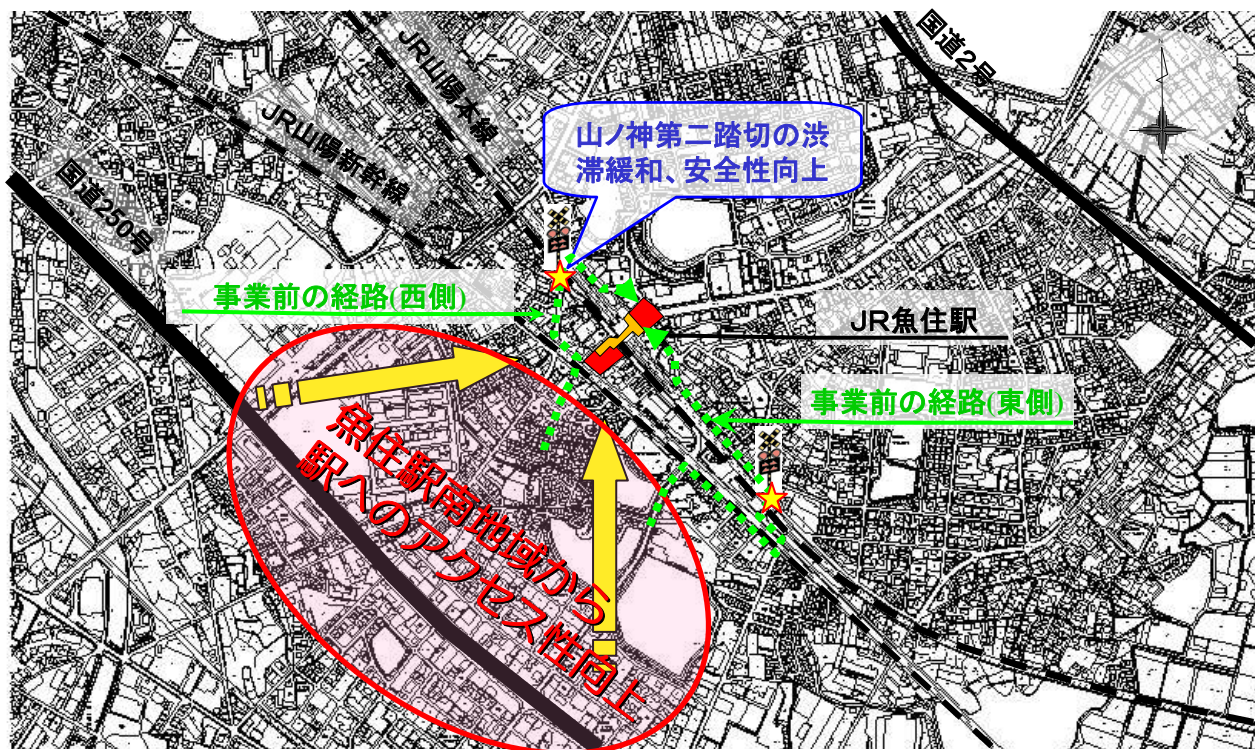


縮尺 1/15,000

全体図(平面図・パース)



JR魚住駅周辺整備事業の整備効果アピール資料



○事業概要

事業名: 交通結節点改良事業
路線名: 魚住駅前線、魚住駅歩行者道、魚住駅南線
事業箇所: 明石市魚住町中尾ほか地内
事業範囲: 駅北広場 A=0.23ha
駅南広場 A=0.19ha
自由通路 L=70m
総事業費: 約34億円
事業期間: 平成15年度～平成21年度

○交通量調査結果

山ノ神第二踏切
(事業前)
車両 3,040台/12h
歩行者 3,499人/12h
↓
(事業後)
車両 26%減
歩行者 74%減

○バス利用者調査結果

(事業前) 北広場: 5ルート
広場外: 2ルート
利用者: 341,402人/年
↓
(事業後) 北広場: 4ルート
南広場: 3ルート
利用者: 377,335人/年
↑
利用者 11%増

○整備効果

1. 交通結節機能の強化

自由通路を設置することで、駅南側の利用者が、踏切を渡らずに駅へアクセス出来るようになり、交通結節機能の強化を図った。

2. 公共交通の利用促進

南北駅前広場にバス停車スペースを再配置することで、バスが踏切を渡らず駅へアクセス出来るようになり、定時性向上による公共交通の利用促進を図った。

3. 市街地の活性化

JR魚住駅周辺の南北地区は、鉄道により分断されていたが、自由通路の整備により地域間の交流を促進し、南北のまちを一体化することにより市街地の活性化を図った。

4. バリアフリーに配慮した歩行者空間の確保

駅前広場、自由通路、情報案内板、トイレ及びエレベーターについてユニバーサルデザインに配慮した整備を行う等、高齢者や身体障害者も含めた利用者の利便性向上を図った。

事業前写真

平成19年7月撮影



車両、歩行者が輻輳する
山ノ神第二踏切



老朽化した駅北広場



市街化されていない駅南地区



南側からアクセスできない駅

事業後写真

平成23年2月撮影



山ノ神第二踏切



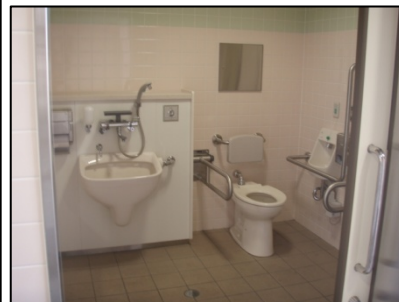
自由通路



再整備した駅北広場



情報案内板



オストメイト
対応トイレ



新設した駅南広場



新設した自由通路